

「教育委員会・校長会・大学が連携した『若手教員向け教師力向上セミナー』」

調査の概要

◆課題認識

- ・退職教員の増加に伴う、教員に占める若手教員が増加している
- ・校内における指導体制の構築についての相談数が増えている

◆調査研究の目的

- ・若手教員が抱える指導力に関する不安等を明らかにすること
- ・管理職、若手教員等のニーズに応える校内体制、校内研修の充実を図ること

◆調査研究の方法

- ・実態を調査するための視察、ヒヤリング、参観の実施
- ・モデルプラン作成と一部実施（セミナー）

◆調査研究校

＜先進地域＞

- ・新潟県長岡市（小学校2校、中学校2校、教育センター）、熊本県産山村産立山小中学校、熊本県山江村立山田小学校、横浜市教育委員会

＜実態調査校＞

- ・新潟県魚沼市（小学校1校）、新潟県佐渡市（小学校1校）、新潟県上越市（小学校2校）、新潟県十日町市（小学校1校）

◆現状（アンケート、ヒヤリング結果）

- ・若手教員の半数が「学級経営・学級づくり」「保護者への対応」に「かなり不安」と感じている
- ・若手教員は「すぐに役立つスキル」「授業のネタ」、管理職は「授業スキル」「コミュニケーション力」に関する研修を希望している

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・アンケート・ヒヤリングをもとに計画していた研修（セミナー）に加え、若手教員に必要なと考えられる研修（セミナーを4つ増やし、実施した

②ポイントB

- ・教員間のコミュニケーション不足を補う研修（セミナー）計画を作成した

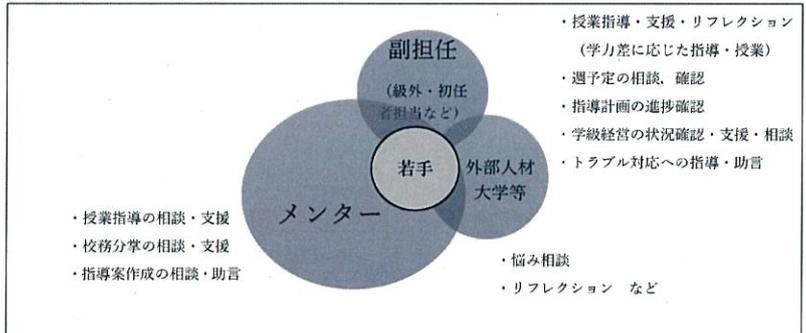
③ポイントC

- ・実施した研修（セミナー）をもとに、研修計画（モデルプラン）を作成し、外部委員や有識者から指導・助言を受けた

◆成果

- ・若手を取り巻く体制を右図上（若手教員サポート体制）のように整えることを提案した
- ・現場の校内研修に配慮しながら、右図下（モデルプラン例）の研修計画を作成した

＜若手教員サポート体制＞



＜モデルプラン例＞

回	実施時期	テーマ（内容）	備考
1回	4月 始業式前	学習規律・学習技能について（学級経営） 安心して学習に臨むことができるように学習規律・学習技能について校内で確認し、実践の意識を共有する。教員間で実践方法等を紹介し合うなどの研修を行い、互いに学び合うようにする。（ワークショップ） どうする学級開き？（学級経営） 学級開きに向け、児童生徒に話す内容を考えるとともに、伝え方の練習をする。（ワークショップ、ロールプレイ）	他地域等で実践されていることを参考にしてもよい。
2回	5月	児童生徒の褒め方・注意の仕方 スタート1ヶ月後の児童生徒の様子を、どのように褒めているか、注意をしているか振り返るとともに、改善に向けて練習をする。（ロールプレイ） 特別支援教室のケーススタディ	特別な支援を要する児

今後の課題

◆「モデルプラン（体制・研修計画）」の本格実施と検証

- ・モデルプランにおける研修計画は一部実施したが、体制については提案のみであったため、学校現場において実施・検証する
- ・大学のセミナーにおいて引き続き、モデルプラン（研修計画）を実施・評価をする